

平成27年2月19日

ロータリーの歴史（1）

来週の2月23日は税理士記念日ですが、ロータリークラブの創立記念日でもあります。本日はロータリーの歴史について簡単にご説明したいと思います。

ロータリーの最初のクラブは、自由主義経済が過熱した過当競争や誇大広告、不正が横行する20世紀初頭のアメリカのシカゴに誕生しました。商道德の欠如する風潮に耐えかねた青年弁護士ポール・ハリスは、友人3人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やそう、と考えました。

1905年2月23日、最初の会合に集まったのは、発案者のポール・ハリス、石炭商のシルベスター・シール、鉱山技師のガスターバス・ローア、仕立屋のハイラム・ショーレの4人でした。

「ロータリー・クラブ」という名称は、当初会合を会員の事務所で輪番（持ち回り）で開いたことから「Rotary」（回転する、回転式の）という呼称になったと言われています。

シカゴRCは設立後3年で会員数は200名を超えたそうです。

創立の翌年1906年、シカゴRCは最初の「綱領」として、以下の2項目を定めました。

第1 本クラブ会員の事業の利益の増大

第2 通常社交クラブに付随する親睦及びその他の特しいに必要と思惟する事項の推進

会員間の相互扶助による会員の利益と社交クラブとしての親睦が謳われていますが、それだけではクラブの存在意義がないという声に応じて、2年後「地域社会に対する貢献、公共への奉仕」を謳った第3の項目を追加したことにより、ロータリー・クラブの活動の方向性が定まりました。

類似の社交クラブのほとんどが歴史の流れの中で消滅していきましたが、ロータリーは、方向性を実践する中で深化・洗練させることで世界中に発展していくことになります。

創立して2～3年でロータリーの最初の危機が訪れます。シカゴRC内で会員同士の親睦や金銭的な相互扶助を優先させようとする「親睦・互惠派」と、精神的な仲間意識を大切に、対外的な奉仕活動を積極的に行っていこうとする「奉仕・拡大派」の対立が起こります。創始者のポール・ハリスやアーサー・シェルドンは、「奉仕・拡大派」でしたが、クラブ内では少数派でした。

シカゴRCでの「親睦か奉仕か」という対立を解消するため、クラブでは“親睦”を旨とし、当時シカゴから全米に広がり始めたロータリー・クラブの連合会で“理念提唱とクラブの拡大”を推進することになりました。1910年、全米16クラブの連合会が設立されます。

これが後に国際ロータリー（R I）に発展します。

全米ロータリー・クラブ連合会の会長には、ポール・ハリスが、事務総長にはチェスリー・ペリーが就任しました。

事業および専門職務のリーダーたちの集まりであるロータリーは、自らの職業において高い道徳的水準を維持すること、業界の職業倫理を高揚することに力を入れました。

1915年のサンフランシスコ国際大会で、「職業人のロータリー道徳律」が採択されました。その内容は、ロータリーの「奉仕理念」の真髄を表現しており、現代社会においても、ロータリアンが守るべき指針となっています。

1917年アトランタ国際大会で、アーチ・クランプ会長は「世界で善を成すための寄付金」を呼びかけ、「ロータリー基金」が創設されました。

1928年のミネアポリス国際大会で、「ロータリー基金」は「ロータリー財団」と改称され、発展を続けています。

その後ロータリーは第2の危機を迎えますが、続きは来週にしたいと思います。